



第3学年国語科学習指導案 福井県大飯郡大飯町佐分利小学校

昭和40年9月10日(金) 第2校時

1 題材 フランツのゆめ(物語) 日書3年の1

2 題材について

(1) シューベルトの幼年時代を描いた伝記文である。

(2) フランツの持っている天分と熱意、母親やその他の人々の好意と真情、それらが美しい物語となっておりなされている。音楽に対する非常なゆめと練習それにまつわる人々の善意というものが主題になっている。

(3) フランツのゆめが母親の愛情とさしもの屋の好意によって実現される話で、かれの天分がピアノ工場長に認められ、毎日イイピアノで練習できるようになった事情が書かれている。ピアノの白いキーと黒いキーがそれぞれ小びとの帽子になるところにフランツのゆめの美しさがある。

3 目標

周囲の人たちのあたたかい人間関係、それにささえられているフランツの天分と努力を読みとり人物の気持ちが交流する点にふれさせる。

4 指導計画 本時 3 / 9

5 本時の目標

文に即して場面のように古いピアノに対するフランツの失望悲しみとを読みとる。



6 本時の指導過程

本文	予想される学習活動	指導上の留意点
<p>フランツは小さな指をいっぱい広げてピアノをひいていました。 やっと八つになったばかりの子どもなので足の先がゆかにとどきません。</p> <p>その足の先をフランツはきよくに合わせてふっています。たぶん気づかずにふっているのでしょう。</p>	<p>文題からの予想、各自の予想をノートに書いてから発表。 読む 黙読 指名読</p> <p>自由読み 書き込み ○話し合い 分からないこと 分かったこと フランツ 八つになったばかりの子ども 足の先がゆかにとどかない ピアノをひいているようす 足の先をきよくにあわせてふっている たぶん気づかずにふっているのでしょう 思ったこと まとめ(みじかい話しかえ) ノートに のまとめを書く ○ 部分表現読み</p>	<p>フランツが人名であることに気づかせる。 書き込みの記号 分かったこと ? 分からないこと ! 思ったこと</p> <p>こそあどことば つなぎことば</p> <p>最初に分からないことを発表させ難語句などを文脈に即して指導する。</p> <p>たぶん・・・でしょう。推量の気持ちに気づかせる。</p> <p>まとめ やっと八つになったばかりの子どもがピアノをひいている。</p>
<p>けれども、フランツノのかおはかなしそうでした。もう日がくれかかっていた。うす暗がりに白いキーだけがうかんで見えます。そのキーはところどころいたんでいます。</p> <p>ひき方が悪いん</p>	<p>読む 黙読 指名読み 自由読み 書き込み 話し合い 分からないこと 分かったこと</p>	<p>「けれども」をおさえる前の文と関係</p> <p>足の先をきよくにあわせていっしょうけんめいピアノをひいているけれども</p>



<p>じゃないんだ。ピアノがくる いるんだ。音ので出ないキーだ ってあるんだもの・・・。 ああ、いいピアノでひいてみた いなあ。 フランツは、そっとピアノの ふたをしめて、ふたの上につ ぶせになりました。そのままフ ランツはねむってしまいました 。</p>	<p>古いピアノに対する失望 と悲しみ けれどもかなしそう 白いキーだけが見える そのキーはところどころ いたんでいる ひき方がが悪いんじゃない い ピアノがくるっている 音の出ないキー ああいいピアノでひいて みたいなあ ふたの上につぶせにそ のままねむってしまった 思ったこと まとめ(みじかい話しかえ) 予想 部分表現読み 表現読み</p>	<p>分かったことを発表させ古 いピアノを明確にしフランツ のかなしみを読みとらせる。 話し合いの時、本文をおさ えて発表するように注意す る。 は、「 」とちがいの音 声をださない場合のひとりご とである。 第5時の時に、はればれと対 照させる。 自分の家のピアノをひいて いるとき、フランツの顔は、悲 しそうであることを読みとら せる。 だけ ほかのものは、何も 見えず、白いキーばかりがと 限定する。 そのキーのそのは何をさし ているかを考えさせる。</p>
---	---	---

「フランツのゆめ」事前研究会

語句の指導と語彙の指導とを分けて考える。語句の指導とは、読解を助けるために、読解の時
 に指導するものであり、語彙指導とは、教材に出てくる語を中心として発展的に指導し、語彙を
 豊富にするものと考えて、「フランツのゆめ」の新出漢字、難語句を抽出し、読解に入る前に
 取り立て指導をする。」

短文づくりは、通常読解の作業中教材の終末段階とするものだが、取り立て指導の時短文作り
 をし、家庭学習の課題として与える。

全文通読をしないために読解に支障をきたすことはないか。短い教材で最初に全文通読し、全
 体をとらえ次に一読法をし最後にまとめるという指導をしてみたらどうか。

予想させるとき、教師は、どのように助言するのか。「フランツのゆめというお話ですが、ど
 んなことが書いてあると思いますか。」というつもりである。

や・・・はどこで指導するか。

家庭学習読みとりノートは使うつもりか。使わないで予習なしではいりたい。「たぶん・・・
 気がつかずにふっているのでしょうか。(推量)」と「気がつかずにふっている。(断定)」との
 違いは、設問にもあるから軽く扱う。

「けれどもフランツのかおはかなしそうでした」という文は、1段落か2段落かどちらにい
 れるべきか。けれどもに注目させるためには、2段落にいれ意図的に指導した方がよい。



あたりが暗くなっても気がつかないほど真剣にひいていることを読みとらせる。フランツの願いは、いいピアノでひきたいのだということを確実に読み取らせる。

授業の観点としては、指導すべきポイントをチャンスをとらえてきりこんだか。よかった点、悪かった点を明確にする。

「フランツのゆめ」事後研究会

一般的なことだが、国語の授業は、他の教科とは異なり味が違うのだから、そのことを考え、あたたかい雰囲気をつくること。子供が、発言するのは、先生に聞いてもらいたい、認めてもらいたいという気持ちがあるのだからほめるようにしてほしい。ほめることによって子供をのばすことを考える。

第2学年1組 国語科学習指導案

福井県福井市順化小学校

昭和47年6月12日(月)

1 題材 チビクロ＝サンボ

2 本時の目標

たいせつなくつやかさなどをとらにとられてイクトキノサンボの心とくつやかさを身につけて大いばりするとらのようすを読み取らせる。



3 指導過程

過程	教師の働きかけ	児童の活動	指導上の留意点
目標確認	○サンボやとらのようすや気持ちを読み取ろう。	○本時の学習の目当てを確認する。	○本時の目標をはっきりつかませる。
読む	○ サンボやとらの気持ちを表して読もう。	○ 4人グループで役を分担して音読する。	○「 」の部分に気をつけさせる。
読み取る	○ サンボからの手紙を聞こう。 ○ 第3のとらとの出会いを読み取ろう。 ○第4のとらとの出会いを読みとろう。	○教師作「サンボからの手紙」を聞く。」 ○くつを耳にかけたとらのかっこうを見たサンボの心の中を考える。 ○第4のとらと会ったところを2人組で動作化してみる。	○あらすじを思い起こさせる。 ○絵によりサンボのちえに気づかせたい。 ○「いばっていました」と「大いばり」でしたとのちがいを考えさせる。
書く	○サンボやとらへの手紙を書いてみよう。	○ サンボやとらへ教えてあげたいことを書き発表する。	○ 書いてまとめさせる。
読む	○きょう学習したことを読みの中へ生かそう。	○ 表現読みをする。	○登場人物になりきって読ませたい。
次時への発展	○第3段落を読もう。	○とらがバターになるようすを読みとりたい。	○次時の学習の目あてをつかませる。

学習の手引き 1を読んでかきましょう。

だれがでできますか。

おとうさんの名まえはどういいますか。

おかあさんの名まえはどういいますか。

男の子の名まえはどういいますか。

サンボは、どこにすんでいますか。

南の国ということから考えられるものを三つ書きましょう。



おかあさんはなにを作ってくれましたか。
おとうさんがなにをかってくれましたか。
どんなおとうさんだとおもいますか。
おとうさんはどんなしごとをしているとおもいますか。
どんなおかあさんだとおもいますか。
おかあさんは、サンボのことをどうおもっていますか。
あなたのおかあさんは、あなたのことをどうおもっていますか。